

カギノテクラゲ



△
手にのせると
とても危険な
カギノテクラ
ゲ

2005年4月初旬、東白
浜の網不知湾の岸壁で珍しい
カギノテクラゲを発見した。
雌雄1個体ずつが寄り添うよ
うに遊泳していたので、有性
生殖のためのランデブーかも
しれない。ともに直径13ミ
リほ
どあり、肉眼で簡単に見つけ
ることができた。

久保田 信

59



カギノテクラゲはマミズク
ラゲなどとともに淡水クラゲ
類に属するヒドロ虫綱の仲間
である。淡水クラゲ類と言わ
れるが、ほとんどは海に生息
している。日本では13種確認
されているが、淡水に生息す
るのは3種のみだ。カギノテ
クラゲはその名の通り、触手
の先端付近に1個の吸着器を
備えている。これで、普段は
海藻にびたりと付着して暮ら
している。目立たない。

2匹のうち、雄は逃がした
が、雌はつまく手ですくい取
ることができた。実は、この
ような捕獲方法は大変危険な
行為なのだ。皮膚の柔らかな
所を刺されると、病院送りに
なる可能性がある。

以前、北海道のガ
ラ藻場での生態学的
研究中、このクラゲ
がウェットスーツの
隙間から入って胸を刺された
先輩がいた。気分がすぐに悪
くなり、救急車で病院へ運ば
れたが大事には至らなかった。
手遅れになったらと思う
と恐ろしい事例である。淡水
クラゲが有するこの類特有の
大形刺胞に威力があるのに違
いない。

このカギノテクラゲは摩訶
不思議な生活史を送る。私の
恩師の先生である内田亨先
生によって報告されている。
条件が悪くなったポリプは、
シストと呼ばれる包囊(ほう
のう)となって堅い殻を分泌
して深い眠りに入る。その間
に無性生殖でフルストラとい
うナメクジのような幼生と小
さな未成熟クラゲを複数ずつ
つくる。フルストラ幼生は、
シストからはい出ると泳がな
いで海底をずるずるはい回
る。

まるで原生動物の胞子虫類
に似た生活史をたどる不思議
な報告だった。生前、追試を
内田先生から頼まれたが、い
まだできていない。

(京都大学准教授)